

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成30年6月26日から平成30年11月7日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050222、050482	

2 福祉サービス事業者情報（平成30年 9月現在）

事業所名： （施設名） 長野市後町保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 45名（27名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和23年8月1日
所在地：〒380-0845 長野県長野市西後町614-6	
電話番号： 026-232-0333	FAX番号： 026-232-0333
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員： 10名 非常勤職員： 7名
専門職員	（専門職の名称） 名
	・園長 1名 ・保育主任 1名
施設・設備 の概要	（設備等） （屋外遊具）
	・固定遊具なし
	・乳児室 … 2室 ・保育室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 2室

3 理念・基本方針

<p>長野市が目指す子どもの姿 （長野市乳幼児期の教育・保育の指針より）</p> <p>かがやく笑顔で げんきに遊ぶ しののキッズ</p> <p>安心できる環境の中で、子どもが自分に自信を持ち、遊びや生活を通して 友だち等の人間関係を築いていく生き生きとした子どもを育てます。</p>

【教育・保育の基本方針】

- 健康な心と体を育てる
自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、健康で安全な生活を作り出す基礎を培う
- 感じて、考えて、チャレンジする力を育てる
好奇心や探求心を持って人や物と関わり、試行錯誤しながら最後までやり通す力を育てる
- 自信を持ち、自分を好きになる教育・保育の推進
満足感や達成感を得られる体験を通し、自信を得たり認められる嬉しさを感じることで更なる意欲へとつながる教育・保育を進める。
- 人との関わりを大事にする教育・保育の実践
自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いや考え受け止めたりして、人との関わりをもつことに喜びを感じる教育・保育の実践
- 家庭や地域との連携
子どもの心の安定と健やかな成長のため、家庭での子育てを支え、地域における子育て・子育て支援を行います
- 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った全体的な計画を作成し日々の教育・保育を実施します。

- 後町保育園 保育方針
 - ・遊びを通して元気な心と身体を育てる保育

- 後町保育園 保育目標
 - ・友達と仲良く遊ぶ子ども
 - ・自分の思いを伝えることのできる子ども
 - ・楽しく食事ができる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当後町保育園は長野市が直接運営する28園(内休園1園)のうちの一つで、平成3年3月、2階建ての現園舎が新築落成し長野市中心市街地の歴史ある保育園として継続運営されている。

当保育園は明治27年6月に後町小学校(平成25年3月統合のため廃校)子守教習所として発足し、明治44年5月、後町小学校幼児保育所となった。その後、昭和19年に後町国民保育所となり、昭和23年4月に児童福祉法の制定により長野市民生課に移管され後町保育園となった。更に、昭和24年7月には児童福祉施設としての認可を受け、昭和32年4月には旧園舎が落成し、平成1年4月、定員35名(現定員45名)の小規模園となり、平成3年4月、現園舎での運営が始まり、27年の歳月の中で多くの卒園生を送り出している。

当保育園のある長野市西後町は町の東縁を長野駅前から善光寺へと続く中央通りが通り、南縁は中央通りから長野県庁へ通じる寿通りとなっている。町域の多くを寺院や県立大学後町キャンパス、オフィスビルなどの敷地が占め、中央通りから一本西に入るだけで落ち着いた静か環境が形成されている。江戸時代には、現在の東後町と併せて後町と呼ばれており、善光寺町のうちの町年寄の治める「八町」の一つであった。後町は長野村と妻科村にまたがり、後に長野村後町が東後町となり、妻科村分が西後町となった。町名は鎌倉時代に信濃国の後庁(御庁＝国衙 ※国衙(こくが)とは、日本の律令制において国司が地方政治を遂行した役所が置かれていた区画)が置かれたことに由来し、近隣の県町遺跡からも地方では珍しい出土品が見つかっている。

町は善光寺近くにある弥栄神社の御祭礼で中央通りを屋台巡行する御祭礼町20町の一つで、1758

年(宝暦8年)に御祭礼町に加わったという。町には1873年(明治6年)に制作された総ケヤキ造りの本屋台があり、更に、1925年(大正14年)に作られた踊り屋台もあり、後町小学校跡地に立った「後町ホール」の一角にある倉庫に保管されている。当保育園の目の前にあり散歩に出掛ける子どもたちも倉庫の扉が開いている時には目にすることができ、その豪華さと華麗さに目を輝かせている。

現在、地区内の人口及び世帯数は164世帯295人(平成29年4月1日現在)で、税務署、銀行系や大手通信会社などのオフィスビルが立ち並ぶという環境下、昼間人口は多いが夜間人口が少なくなるという特異性をもっており、当保育園の保護者にも働きながら通勤途上にある当園を選択している方がいる。こうした中、当保育園の西隣の後町小学校跡地には今年度4月に県立大学後町キャンパスがオープンし、学生寮や地域貢献型施設・ホールがあり、若い学生たちが町の屋台の引手役になるなど地域の活性化という面でも期待がされている。当保育園でも防災面でキャンパスにあるサポートセンターからの支援を受けられるようになっている。

現在、当園には0歳児3名と1歳児4名のひよこ組、2歳児7名のりす組、3歳児4名・4歳児2名・5歳児7名のきりん組の三つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせて作成された平成30年度「全体の計画(保育課程)」の「保育方針」に掲げた「遊びを通して元気な心と身体を育てる保育」に沿い、「元気に遊ぶ子ども」、「自分の思いを伝えることのできる子ども」、「楽しく食事ができる子ども」という当園の保育目標の実現に向けて職員が小規模園ならではの創意と工夫を凝らし「アットホーム」な異年齢の混合保育に取り組んでいる。

また、当園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するためそのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、時間外保育や一時預かり、障害児保育、おひさま広場等を実施している。時間外保育は短時間認定保育利用者が勤務の関係で時間外保育が必要と認められた時に利用するサービスで多くの保護者が利用している。一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで当園でも受け入れが可能となっている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスでいつでも受け入れることができるようになっており、次年度に向けて保育を希望する親子の利用がある。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度2018年度から2020年度までの中期計画として、長野市運動プログラムの活用で運動機能育成を図ること、公開保育、「信州自然型保育(信州やまほいく)」の認定を目指す等を掲げ具体的に進めており、地区の人々や市街地ならではの社会資源を活かし、職員の資質の向上についても少ない人員でお互いに融通し合いながら研修などに参加しチームとして取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数 (前回の受審時期)	今回が初めて
----------------	--------

6 評価結果総評 (利用者調査結果を含む。)

<p>◇特に良いと思う点</p> <p>1) 市街地ならではの戸外での活動</p> <p>当保育園は長野駅前から善光寺に続く中央通りの中ほどを一本西に入った通りに面しており周りには官公庁やオフィスビルが立ち並び、古くからの市街地を形成しているが、逆に多くの社会資源に恵まれており、園では散歩を日課とし、0歳児1歳児のひよこ組、2歳児のりす組、3歳児・4歳児・5歳児のきりん組にそれぞれ分かれ、散歩を主とし戸外に出掛けている。</p> <p>当園では善光寺の門前町の基盤の目のような市街地の散歩マップを作成しており子どもたちのイラストや職員の撮影した写真などが貼られ、そこには市立図書館や市の中央消防署、街場の中の自然豊かな公園、寺社仏閣などが一目でわかるようになっている。</p>
--

当園の中期計画では2020年度に「信州自然型保育(信州やまほいく)」の普及型の認定を目指しており、市街地にある保育園ではあるが、近隣の公園や神社、商店街に散歩に出掛け、お祭りの山車を見学したり、途中で消防署の見学に立ち寄ったりと社会資源を上手に活用している。また、職員と子どものコラボレーションで作った「お散歩バック(素材は牛乳パックで、約半分の高さに肩掛け用のひもを通した入れもの)」を工夫して作り、自然からの贈り物の落ち葉や木の実、枝他を採取し工作や園での遊びに使っている。

中央消防署に立ち寄った際には憧れの消防士との話や消防車を見たりして喜び、図書館に立ち寄り絵本などを借りたり返したりして社会のルールなども学んでいる。更に、隣接地の後町小学校跡地にはD51形蒸気機関車が置かれた緑豊かな県立大学のキャンパスもあり、訪問当日も散歩に出かけ、集めてきた宝物のどんぐりや色とりどりの葉っぱを、帰園時に目を輝かせて誇らしげに見せてくれる子どもがいた。

当園の園庭は狭隘ではあるが、それを感じさせないほどの戸外での活動で補っており、職員は安全な道のりの点検を行い、散歩が日常的に行えるように入念な準備を心掛けている。そうした中、子どもたちが自然環境豊かな公園や広場などで外気に触れながら五感を通して様々な感覚や知覚を得、自然の不思議さやおもしろさを感じ、多くの興味や関心を抱かせている。

2) 地域の人々との連携を通じた社会体験

当保育園の全体の計画として文書化し、地域の商店街や団体などと積極的な連携を図り子どもたちが地域社会で色々な体験ができるようにしている。

中心市街地にある保育園らしく商店街の主催する5月の花フェスタでは子どもたちがペチュニアやマリーゴールド、コリウスなどの色鮮やかな花々のポット苗を斜めのボードに配置し商店街の一角に飾り、フェスタ終了後は園に持ち帰り園庭やベランダのプランターに植え替え、一夏、水やり等のお世話をし大切に育てている。また、8月の七夕まつりも近くの商店街で開催され、竹に吊り下げたりアーケードの天井から下げる七夕飾りの制作に関わり、見学にも出掛けている。7月の祇園まつりは中央通りで行われ、町内の屋台なども巡行されるので見学をしている。

いずれのイベントでも、地域の人々に挨拶したり、一緒に制作に携わるなど、大人との関わりの中で様々な感情や欲求が生まれ「人と関わる力」が育まれている。

保育園は地域において最も身近な児童福祉施設であり、定住者が少なく夜間人口が少ないという市街地の中ではあるが、当園では機会あるごとに地域の人々とふれあい、地域の活性化にも寄与している。

3) 職員の創意工夫

当保育園だけでなく他の公立保育園でも同様であるが、使える予算の上限が決まっており、当保育園でも、職員からの意見や要望を把握し、優先順位を決め、経費の効率的な運用に努めている。そうした中で職員自ら作ったり、工夫することで経費の圧縮に努めている。

緊急時の方が一の持ち出しをスムーズに行うために、子ども達の上履きや帽子を入れる職員手作りの肩掛け大型バッグ(牛乳パックで作成)を保育室出口に置いており、避難時には大量に運べ使い勝手も良く、普段から子ども達も慣れ親しんでいる。日頃からの災害時に備えた訓練の中から緊急時に必要とされるものが職員の創意工夫の中から形となって使用できるようになっている。

また、形として見えない工夫として秋の遠足の電車利用が上げられる。子どもたちの数も少ないことから貸し切りバスだと割高になることから、目的地を決める段階から電車での移動を考え、長野駅から歩いて20分から30分ほどの自然豊かな公園へ、園近くの私鉄駅から一駅の区間であるが大人と子供のセット割引で格安に行けたという。長野駅東口側の公園ではあるが、職員は事前に同じルートと同じ電車を使い下見をしながら万全な体制を取り、日頃、車社会に慣れた子どもたちにとっても乗車切符を買う段階から新鮮で、かつ、大好きな電車に乗ることで満足した一日を過ごしたようである。保育室に張り出された、子どもたちが描いた遠足の絵からもその時の感動が伝わってきた。

公立保育園といえども資金は潤沢ではなく、多くの福祉施設では「運営」から「経営」へのバランス感覚の変更を余儀なくされており、経費削減を追い求めて保育の質を低下させることは本末転倒ということになるが、当保育園では経験豊かなベテラン職員が多く、コスト削減はアイデア次第ということも自らの家庭生活の中で身に染みて感じており、積極的に「節約できるものは

節約する」、「使えるものは何でも使う」ことを意識し創意と工夫でコスト削減に繋げている。

4) 職員の協働

当保育園の職員構成は園長1名、主任1名、保育士6名で、小規模ということもあるが保育士経験の長い職員が多く、また、自身の子育て経験や人生経験から保育の専門性も高く、新しい保育内容についても自己研鑽を惜しまず職員同士の共通理解を図り、協働性を高めている。

職員会議は週1回水曜日に行われており、担任のクラス以外の子どもの状態についても職員全体で把握しケース会議ノートに情報として記録し共有を図り、日々の保育に取り組んでいる。また、毎年公立保育園・幼稚園などの研修、他園への訪問保育、公開保育、信州型自然保育(信州やまほいく)研修、子育て塾などに参加した職員からの報告を職員会で行い、職員会ノートにも記録し閲覧・共有できるようにしている。更に、当園では障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法にも配慮しており、担当保育士は障害児研修会に参加し、研修内容を報告して職員全員で共有し、共通理解を図っている。

小規模園であるので必要な時に園長との相談を随時行うことができ、仕事と生活の両立という面でも、時間外労働の削減、時差出勤や行事準備の簡素化、年次有給休暇取得の促進などに全職員で取り組んでおり、育児や介護、療養休暇などの状況に応じてお互いに融通し合いながら休暇が取得できるようになっている。

保育園の機能や役割が増す中で、職員には組織の一員としての成長がこれまで以上に求められているが、当保育園全体としての責務を十分に果たすために職員がお互いに協働し、一人ひとりに与えられた役割を全うしている。

◇特に改善する必要があると思う点

1) 更に多くの人々との関わりを育む環境づくり

当保育園では異年齢保育をしており、異年齢での子どもたちの活動を通して相互に教え合い、学び合い、共に育ち合うことが出来ている。

現状、小人数、また、異年齢保育の良い面が出ていて職員は様々な取り組みをしており、中心市街地にある保育園らしく商店街の主催する5月の花フェスタや8月の七夕まつりには子どもたちが生花での作品づくりや七夕飾りの制作に関わり見学に出掛け、7月の祇園まつりなども見学している。更に、地域のボランティアによる人形劇、読み聞かせ、ブラックシアターなども行われ、正月には季節に合わせ、地域の人々と正月遊びを一緒に楽しんでいる。

「幼児期に終わりまでに育て欲しい10の姿」の中にも「社会生活との関わり」として「地域の身近な人とのふれあい」が謳われており、少子化といわれる中、「人と関わる力」を育てていくことが大切で、子どもが周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境の整備が必要ではないかと思われる。

今後、可能であれば近くの公立保育園の子どもたちとの交流やボランティアの幅を広げる働きかけなどにより、子どもたちが、更に、相手の気持ちを考え、自分が他の人の役に立ち、地域に親しみを持てるようになっていくことを期待したい。

2) 短時間や臨時的な駐車場の確保

市街地の中にある保育園であるため立地面で駐車場の確保が難しいことは十分に理解できるが、保育参加や入園進級式、卒園式、クラス懇談会等の行事に出席するためには、保護者が保育園近くの有料駐車場に車を止めなければならない。また、送迎時の時間帯も保護者と職員の信頼関係を醸成するには子どもの様子を伝える時間が必要となるが、落ち着いた会話に時間的な制約がかかってしまう。

現状は子どもの数に合わせて職員の適正配置がされているが、定員45人ということでもまだ余裕が感じられる。オフィス街も近い働きながら子育てをしたいという保護者にとっては勤務先に近い、あるいは通勤途上という点から利便性があり、最適な場所ではないかと思われる。

単独の園として考えれば人件費を除くコスト面では大きな経費がかかることは推測しがたく経営面でも駐車場の不備による利用希望者の流失はもったいなく機会損失に繋がっているのではないかと思われる。

保護者からの要望もあり、短時間や臨時的な駐車場の確保を期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

長野県福祉サービス第三者評価事業評価結果取扱要領第2条第1項の規定により、有効回答者数が10人未満のため、非公開とします。

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年11月 5日記載）

第三者評価の受審にあたり、評価は点数をつけランク付けをして順位を付けるのではなく、保育園としての理念や教育・保育の基本方針に基づいた保育目標が具体化され、より良い福祉サービスの到達度を示してもらおうという、第三者評価の正しい意味を職員全員で共有し気負うことなく評価に臨むことが出来た。

受審に向けて自園の良さは何か自問自答しながら、出来るだけ普段通りの保育を実践し、訪問日両日は天気も良く散歩に出かける子どもたち、たくさんの秋のおみやげを持ち帰るいつも通りの姿があり、まさに毎日の保育そのままでした。

保護者アンケートの中にある、不審者対応などに危機管理については安全管理をもう一度見直すきっかけとなり、一定時間がきたら内鍵をかける、園庭の門にはダイヤル式の鍵と紐を二重にかけるようにした。又地域との交流についても出来るところから始め、他の保育園の子どもたちと交流をする、散歩で同じ目的地に行き合流して遊ぶなど工夫をして無理なく実践につなげていきたい。

駐車場の確保については立地的にも難しい課題であり保育園だけではどうすることも出来ないが、保護者との信頼関係を築くための工夫や行事のあり方をあらためて考えるきっかけとなった。

今回第三者評価を通して全職員で保育の振り返りをし、保育環境や保育に関わるマニュアルの確認、見直しをすることで保育の質の向上につながった。

相対評価でない絶対評価をすること、他の園と比較することなく小規模園としての良さを大切に質の高い、保護者の求める保育の実践を継続していきたい。